

「伸びる・伸ばす」の集大成、受験体験報告会が行われました。

3月18日（火）、ホームルームの時間を使って卒業した3年生のうち11名が参加し、受験体験報告会が行われました。この報告会は、先日卒業した3年生が自らの受験体験を振り返り、後輩の1・2年生にアドバイスやメッセージを送る会で、毎年この時期に行っている恒例行事です。今年の卒業生の皆さんも本当によく頑張り、多くの方が自分の進路目標を実現しました。詳しくは全ての受験結果がまとまり次第、昇降口に掲示します。

以下に11名の先輩からのメッセージと、先輩のお話を聞いたみなさんの感想を掲載します。

11名の先輩からのメッセージ

TTさん：高い目標を立てよう!!	SSさん：体調を整えて本番で力を発揮すれば合格できます。
SSさん：苦手教科をなくそう!	EKさん：他人との比較に耐えられるメンタルを持つこと。
MHさん：大学を徹底的に調べる!!	YAさん：目標を持って勉強すること!
FMさん：”量”をこなす!!	THさん：最後はメンタルの勝負です!!!
HSさん：最後まであきらめない!!	OYさん：目の前のことに一生懸命にとりくむ。
AKさん：どんな壁にぶつかっても自分の好きなことは諦めない!	



1・2年生の感想よい

- 定期テストが大事ということを確認しました。最近の私は定期テストの勉強もせず、ダラダラだらだら過ごしていたことにとっても罪悪感を覚えます。しかし、これから頑張ってこれまでのロスを取り返して、人に「私、くそほど頑張った!」と言える位になってやります。(1年)
- 3人の先輩方のお話を聞いて、まずは体調管理をしっかりして、点数が下がっても大丈夫だと思えるメンタルを育てていきたいと思いました。そして、今までやってきたことを信じて大丈夫だと思えるようにするためにも、後悔のないように自分が今やるべきことをよく考えて頑張りたいです。(2年)

裏面に続きます

広島大学薬学部での実験講座に参加してきました！！

3月8日(土)・9日(日)の2日間で、広島大学薬学部研究体験講座に参加してきました。この体験講座は、「地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に係る取組支援事業」(文部科学省)の取組の一環として広島大学主催で行われた体験講座です。特に、広島大学が薬学部ではどのような実験や研究が行われているのかを高校生に直接体験してもらい、将来の医療従事者育成に向けて、生徒たちの興味・関心を引き出すことを目的としています。



実験内容

① 化学の反応で薬を作る！【創薬合成化学(熊本卓哉 教授)】

日頃、医療で用いられている医薬品には、植物などの成分を生薬や漢方に用いる医薬品もありますが、化学合成により得られた医薬品がほとんどです。この実験では、市販の原料から医薬品を合成することを体験してもらいます。中学や高校で化学の実験を経験している人もいるかもしれませんが、大学の実験で使う実験器具はまた一味違います。また、ただ作るだけでなく、みなさんが作ったものが本当に目的の医薬品になっているかを調べることも行います。



② 細菌を可視化しよう！【微生物医薬品開発学(黒田照夫 教授)】

細菌は肉眼では見えません。顕微鏡を使っても透明なので見づらいです。しかし特別な染色をすると、細菌の形もよくわかりその細菌が何であるかが容易に予想できるようになります。これは臨床現場での治療において有力な情報です。細菌の染色を実際に体験してみませんか？その他にも色のついた細菌のコロニーの作成も予定しています。



③ 薬の効果を調べてみよう！【薬効解析科学(森岡徳光 教授)】

マウスそのものや組織標本に色々な薬を実際に投与して、その効果を観察してみましょう。薬が身体の中でどのようにして効果を発揮しているか、マウスの行動や組織の活動の変化を観察しながら考えてみましょう。



④ 光るタンパク質(GFP)を単離しよう！【生体機能分子動態学(古武弥一郎 教授)】

日本人研究者である下村脩博士は、オワンクラゲから蛍光タンパク質 GFP を初めて単離し、2008年にノーベル化学賞を受賞しています。GFP を様々なタンパク質に融合させることで、光る目印となって様々なタンパク質の挙動解析に役立っています。本実験では、大腸菌に作らせた GFP タンパク質をきれいに分離・精製する実験を行います。これらの技術は生化学実験でよく用いられる重要な手法です。

どの実験も大変興味深いものでしたが、特に、個人的に印象深かったのが③でした。その実験とは、実際に市販されている「睡眠補助剤」を液体にしたものを、注射器を用いてマウスに投与する実験でした。薬品の投与後マウスは眠りにつくのですが、種類や濃度によって睡眠に至るまでの時間が異なったり、目覚めるまでの時間が異なったりしました。生徒にとって、高校の学習では経験できないような貴重な体験ができたように思います。